

2019年7月24日

雑誌『広告』のリニューアル創刊号が発売。価格は1円（税込）。  
一連動企画「1円ショップ」をオープン

株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：水島正幸、以下博報堂）は、本日7月24日、雑誌『広告』のリニューアル創刊号を発売しました。

リニューアル創刊号の特集は「価値」。ものが溢れるこの時代に、本当に価値あるものとは何なのか、これから価値あるものをどう生み出していけばいいのか。全680ページの誌面を通して、「価値」についての様々な視点を投げかけていきます。

そして、「価値」について考える入り口として、リニューアル創刊号の販売価格を1円（税込）と設定しました。全国の書店、オンラインショップなどでご購入いただけます。



また、リニューアル創刊号と連動した特別企画「1円ショップ」を、雑誌『広告』ホームページ上にオープンしました。

1円ショップ内では、本日発売した雑誌『広告』リニューアル創刊号をはじめ、「あきたこまち ひと口分」「伊豆の天然水 小さじ1杯」「国語辞典 全24語」など計11商品を販売しています。

日本の最小通貨である1円を通して、身の回りにあるものの価値について思いを巡らせていただければ幸いです。

「1円ショップ」へはこちらから：<https://kohkoku.jp/>

\* リニューアル発刊を記念したトークイベント開催を予定しています。（詳細は別紙ご参照ください）

## 【リニューアル創刊号の概要】

『広告』Vol.413

特集：価値

価格：1円（税込）

ページ数：全 680 ページ

発行：2019年7月24日

販売：全国の書店やセレクトショップ等 \*詳細は『広告』ホームページに掲載

雑誌『広告』ホームページ：[https:// kohkoku.jp/](https://kohkoku.jp/)

note 公式アカウント：<https://note.kohkoku.jp/>

### <内容>

- ・価値と人類～文化人類学者 松村圭一郎 × 『広告』編集長 小野直紀
- ・花森安治の「紅いバッグの話」～お金ともの、そしてその価値
- ・「新しさ」のジレンマ～新しくない新商品はなぜ生まれるのか
- ・役に立たないと、いま決めてはいけない
- ・誤配という戦略～必要とされないものを、いかにつくり続けるか
- ・高予算の駄作はなぜ生まれるのか～日本の映画業界の向かう先
- ・権威の崩壊、民意のリスク批評家～佐々木敦氏インタビュー
- ・現代の千利休～価値観を更新するものづくり

ほか全 33 記事を収録。

### <参加・登場>

東 浩紀（思想家）、澤田 康彦（暮らしの手帖 編集長）、柴田 文江（プロダクトデザイナー）、佐々木 敦（批評家）、佐々木 康裕（ビジネスデザイナー）、鈴木 浩三（経済史家）、武部 由実子（映画プロデューサー）、田中 靖浩（公認会計士）、勅使川原 崇（別冊マーガレット 編集長）、豊田 啓介（建築家）、ビジネス図解研究所、広木 大地（レクター取締役）、藤崎 圭一郎（デザイン評論家）、松村 圭一郎（文化人類学者）、三浦 崇宏（PR／クリエイティブディレクター）、水野 良樹（ミュージシャン）ほか

### <雑誌『広告』について>

博報堂が発刊している雑誌『広告』は、1948年に広告文化の創造と発展を目的に創刊されました。博報堂の社員が中心となって編集制作を行い、数年に一度、編集長の交代とともに全体テーマや装丁、編集体制の一新を図っています。2019年よりプロダクト開発に特化した博報堂のクリエイティブチーム「monom（モノム）」を率いるクリエイティブディレクター／プロダクトデザイナーの小野直紀が就任。全体テーマを「いいものをつくるとは、何か？」に据え、この問いを思索する「視点のカタログ」としてリニューアル創刊しました。

## 【『広告』リニューアル創刊記念イベントのお知らせ】

### <第1弾>

『暮らしの手帖』編集長 澤田康彦 × 『広告』編集長 小野直紀

～生活をとりまく「価値あるもの」へのまなざし

「一人一人の暮らしがいちばん大切」をコンセプトに、70余年ていねいで美しい暮らしのあり方を提案し続けてきた『暮らしの手帖』。その編集長である澤田康彦氏をゲストに迎え、『広告』編集長の小野とともに生活をとりまく「価値あるもの」について、等身大の視点で探っていきます。

[日時] 7月27日 14:00～15:30 (13:30 開場)

[会場] 恵文社一乗寺店 (京都府京都市左京区一乗寺弘殿町10)

[定員] 50名 [入場料] 1000円 (1ドリンク付き)

[申し込み方法] 恵文社一乗寺店の店頭または下記ウェブサイトより

<http://www.cottage-keibunsha.com/events/20190727/>

### <第2弾>

文化人類学者 松村圭一郎 × 『広告』編集長 小野直紀

～文化人類学は「ものの価値」を再構築できるか

『うしろめたさの人類学』(ミシマ社)や『文化人類学の思考法』(世界思想社)などの著書・編著で知られ、「すべての物事は再構築できる」という“構築人類学”を提唱する文化人類学者・松村圭一郎氏。「ものの価値とその再構築」について『広告』編集長の小野と様々な角度から語り合います。

[日時] 7月29日 19:00～20:30 (18:30 開場)

[会場] 青山ブックセンター本店 (東京都渋谷区神宮前5丁目53-7)

[定員] 50名 [入場料] 1500円

[お申し込み] 青山ブックセンターの店頭または下記ウェブサイトより

<http://www.aoyamabc.jp/event/kohkoku/>

### <第3弾>

映画監督 塚本晋也 × 『広告』編集長 小野直紀

～「価値あるもの」を生み出し続けるために

『鉄男』『野火』『斬、』など数々の衝撃作を世に送り出してきた塚本晋也監督。自ら資金を集め、脚本、撮影、出演まで行い、作品づくりに人生をかけ、全精力を注ぐその姿に感銘を受けた『広告』編集長の小野が、“つくり手”としていかに「価値あるもの」を生み出し続けるかを問いかけます。

[日時] 7月31日 19:00～20:30 (18:30 開場)

[会場] 無印良品 銀座 6F (東京都中央区銀座3丁目3-5)

[定員] 50名 [入場料] 1000円 (1ドリンク付き)

[お申し込み] 下記の無印良品ウェブサイトにて7月16日より申し込み開始

<https://www.muji.com/jp/events/ginza/>

<第4弾>

アートディレクター 上西祐理 × 編集者 河尻亨一 × 『広告』編集長 小野直紀  
～広告、雑誌、デザインのこれから

今回の『広告』リニューアル創刊号からデザインを担当する電通のアートディレクター上西祐理さんと誌面にて執筆を担当している編集者の河尻亨一さんをゲストに迎え、編集長の小野とともに、「広告、雑誌、デザインのこれから」について語り合います。

[日時] 8月6日 20:00～21:30 (19:30 開場)

[会場] 本屋 B&B (東京都世田谷区北沢 2-5-2 BIG BEN B1F)

[入場料] 前売り 1,500 円 / 当日 2,000 円 ※ともに別途 1 ドリンクオーダー

[お申し込み] B&B ウェブサイトより申込み (Peatix もしくは PassMarket にて事前決済)

または店頭申込み ※当日店頭購入・支払の際は当日料金となります。

<http://bookandbeer.com/event/20190806/>